



## 第112号

2023年1月25日発行

発行⇒郵政産業労働者ユニオン中国地方本部  
Tel&Fax⇒082-244-7719  
piwu-chugoku@abelia.ocn.ne.jp  
http://www.piwu-chugoku.net/



## 郵政産業労働者ユニオン中国

## 見過ごせない。騒然たる

## 『師走』

こんなはずでは……？穴だらけの年繁計画

が挙げられています——

2023年が幕を開け、悲喜こもこもの正月。年賀元旦配達は前年比約85%で推移したと会社は明らかにしています。引続くコロナ禍やさまざまな理由で事業所・個人とも差出を回避する傾向が強まる中での「年末始繁忙期」：しかし一方では荷物や追跡系の郵便が多く貨物量増加にしたがつてトラブルや連携の不行届きが顕著な職場もありました。

去る14日開催された第11回中国地方委員会では、各支部から職場報告として次のような実態

・終業後、居残りや時間前着手が常態化、勤務時間管理不徹底の極みに

・過去「増区」対応だった荷物配達が「通常配置」に。物増で社員応援

・コロナ陽性や濃厚接触で欠務者が多く、廃休や夜勤の前超勤で対応

・勤続三〇数年で初の大晦日超勤：休配日出勤者数限られたため

・荷物取扱い数が倍増し混乱、夜勤22時以降の超勤踏み込みも

また「成人の日」からむ三連続休配（1/7～9）後の配達物数増大と減少にマッチしない要員措置や各局への輸送オペレーションのあり方には苦情・批判の声が強く、28日開催される地本交渉担当者会議で再度、取りまとめ要求化していく方向性が示されました。

このほか11～12月期、地域区分局における運送関係トラブルが頻発した背景には、繁忙期作業の流れを想定・企画する段階で詰めておくべき打合せや申送り不充分だったため、日本郵便輸送を介した運送便（とくに臨時増便）ドライバーと発着担当／郵便部と輸送部／あるいは部内など現場間で意思疎通に行き違いが生じ、混乱を引き起こす事例が繰り返されたものと分析しています。

支社オペレーション担当の情報伝達不足にあり、僅かな人数で計画に当り現場の声を汲み取る姿勢がなかったからに他なりません。かと思えば、料金適正収納の「重点課題」として大口荷物引受の場面に多くの支社要員を投入する等、会社のちぐはぐな対応が際立って見えました。過去の経験を踏まえ、緻密な予測をもつて万全の計画を立てる——その信頼感がなくては、中国地方を取りまとめる支社の存在価値はありません。今更なかったことには出来ない事例を、しっかりと「反省材料」に活かしてもらいたいものです。